

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：28001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370110

研究課題名(和文) 南西諸島の民謡旋律の系統に関する比較分析研究

研究課題名(英文) The genealogical research about folksong melody of Nasei island

研究代表者

久万田 晋 (KUMADA, Susumu)

沖縄県立芸術大学・付置研究所・教授

研究者番号：30215024

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：沖縄の古典音楽旋律と民謡旋律(具体的には民俗芸能である臼太鼓の旋律群)との間の旋律の系統関係について、従来の研究を検証するための方法論について検討を進めた。さらに分析資料を継続的に作成し、一層の充実化に務めた。その結果、新たな知見がいくつか得られた。さらに奄美諸島の八月踊り系芸能の旋律と沖縄本島の臼太鼓旋律の系統関係の解明について基礎的研究を行った。そのために、奄美大島の八月踊り旋律について資料作成作業を進めた。

研究成果の概要(英文)：We have studied and examined the systematical relationship between melody groups of classical music and folksong of Okinawa ("Ushideku", female song and dance in main island of Okinawa). And we have add materials for musicological analysis, and improve quality and quantity of materials. As a result, we have extended our knowledge about the analysis. Furthermore, we have done the basic research of the systematical relationship between melody groups of Hachigatsu-Odori in Amami island and Ushideku in main island of Okinawa. In order to achieve this, we have made musicological materials about melody groups of Hachigatsu-Odori in Amami island.

研究分野：民族音楽学

キーワード：南西諸島 民謡旋律 系統研究

1. 研究開始当初の背景

沖縄本島の伝統音楽には、古典音楽、民俗音楽、大衆音楽に大きく分類できるが、このジャンルを超えた歌謡・民謡旋律の共通・系統関係を明らかにすることで、沖縄の民俗音楽の複雑な歴史の変遷やダイナミックな伝承・伝播の実態を把握することができる。

研究分担者の金城厚が研究代表者を務めた科研費研究(総合研究A、H4~5)「南西諸島の音楽芸能における文化複合の総合的研究」では、南西諸島各地域の民俗音楽研究者を集め、地域やジャンルを超えた旋律の類縁性や、系統関係についての共同研究を行った(久万田、小林も研究分担者として参加)。

小林公江は、沖縄本島および周辺離島全域の臼太鼓旋律の比較表を作成し、旋律の系統関係を明らかにした。さらに臼太鼓旋律と古典音楽旋律の類縁関係を明らかにした。久万田晋は、奄美大島北部の八月踊り旋律のリズム構造について精密に分析し、その分類と成立の前後関係について考察した。また金城は「歌詞音列」によって複数旋律間の遠近距離関係を算出する分析法を開発した(1987)。また歌詞音価列という旋律の歌詞のリズム配置に着目し、臼太鼓旋律と琉球古典音楽旋律の構造的相似性を指摘した。金城や久万田が開発した分析方法を総合的に援用することで、小林が進めてきた沖縄本島全域の臼太鼓旋律の系統関係や、臼太鼓旋律と琉球古典音楽旋律の類縁関係について、より精密な分析が可能となる。さらに久万田の奄美諸島における八月踊り系旋律の分析を小林の沖縄本島の臼太鼓研究の成果とリンクさせることで、より広範囲での民謡旋律の系統関係の解明が期待できると考えた。

2. 研究の目的

民俗社会の中で、口頭伝承によって育み伝えられる民謡旋律は、地域を越えて、さらにはジャンルを越えて伝播する。本研究は、沖縄本島周辺に伝承されて来た、琉球古典音楽、民謡(臼太鼓、エイサー等)鳥々の祭祀歌謡の旋律の系統的関係を、民俗音楽学的研究で開発されてきた分析方法を駆使して明らかにする。それと共に、沖縄本島北部に位置する奄美諸島の八月踊り系芸能を中心とした民謡旋律と、沖縄本島の臼太鼓をはじめとする民謡旋律群との系統的関係の全体像を描き出す。そこからさらに、トカラ列島、種子島・屋久島・鹿児島県本土までの海域を視野に入れ、南西諸島という南北1000kmを超える海域の島々の間で伝播し、伝承されてきた数多くの民謡旋律の系統関係を明らかにすることを目的とする。それによって南西諸島に広く伝わる民謡旋律の伝播の動態を描き出し、広域にわたる多島嶼地域社会における民俗音楽文化の伝承と伝播のあり方を解明するものである。

3. 研究の方法

(1) 第1段階 沖縄本島における異なるジャンル間の旋律の類縁関係、系統関係の解明
沖縄本島の臼太鼓旋律と琉球古典音楽旋律の系統関係を詳細な分析手法を導入して解明する。

各地の祭祀で歌われる祭祀歌謡、儀礼歌謡の間での類縁関係を調査し解明する。

(2) 第2段階 北部琉球文化圏内(沖縄本島および周辺離島、奄美諸島)での民謡旋律の系統関係を明らかにする。特に、芸能構造上類似性が高い沖縄本島の臼太鼓(女性の太鼓輪踊り)と、奄美諸島に分布する八月踊り系芸能(男女の太鼓輪踊り)の間の旋律について、包括的な系統関係を解明する。

(3) 第3段階 旋律比較の範囲を薩南諸島北部(トカラ列島、種子島、屋久島、鹿児島県本土)まで視野を広げ、これまで系統関係を追求してきた民謡旋律の中から、薩南諸島北部と共通する民謡旋律を確定する。具体的には、民俗誌資料や音源資料からトカラ列島、種子島・屋久島、三島村各島の民謡旋律のデータベース化を行い、沖縄本島周辺、および奄美諸島の民謡旋律と比較分析する。それによって、北部琉球文化圏および薩南諸島での民謡旋律の包括的な系統関係を把握する。

具体的には、鹿児島県本土から三島村、種子島・屋久島、トカラ列島、奄美諸島を経て沖縄本島および周辺離島における民謡旋律の伝播の実態を解明する。それによって、多島嶼地域においてどのように民謡旋律を媒介にして音楽文化が伝播・交流してゆくのかという、民俗音楽学的視点からの文化モデルを構築できると考える。それによって南西諸島に広がる民謡旋律の伝播・流布過程を動態的に描き出し、民俗社会における音楽文化のあり方を明らかにするものである。

4. 研究成果

前節における第1段階について、研究分担者の金城は古典音楽の構造について、詳細な分析を進め(論文)分析方法の精緻化を目指した。研究代表者の久万田は、沖縄県内各市町村の民俗音楽(民謡)の伝承状況に関する調査を継続的にを行い(論文)沖縄の民謡旋律と他のジャンル(含古典音楽)の間の相関関係に対する検証を行った。また、沖縄民謡の重要なジャンルであるエイサーについて、音楽学的見地を交えた整理を行った(論文)。さらに奄美諸島および沖縄本島の民俗音楽、ポピュラー音楽についての概観をまとめた(論文)。研究分担者の小林もエイサー旋律の資料化を進めた(論文)。さらに小林は、研究期間中に臼太鼓旋律の五線譜資料化に精力的に取組み、資料蓄積を大幅に充実させ、沖縄本島臼太鼓旋律と他ジャンルの民謡旋律の比較分析に欠かせない基礎資料の精度を上げる成果を挙げた(図書)。

また第2段階については、研究代表者の久万田を中心に奄美諸島、特に奄美大島の八月

踊り旋律について資料作成を進め、北部地域から中部地域、南部地域にいたる約 15 地域の八月踊り旋律の概要を明らかにする展望を得た(この資料については今後の逐次的公開を予定している)。また研究分担者の金城は、本研究の比較分析作業において、各地で収集した録音資料をどのようにアーカイブ化して活用するかという点について、集中的な研究を進めた(論文、学会発表)。

また、沖縄本島の臼太鼓旋律と奄美大島八月踊り旋律の系統関係を明らかにするための基礎的分析作業を研究期間中に進めた(現在久万田が論文を執筆中)。

第3段階については、特にトカラ列島、種子島・屋久島民謡旋律については、未だ資料的に不十分な状況のために当初計画していた段階まで十分な成果が上がったとはいえないが、今後の系統関係研究の基礎資料として民謡データベースの作成を進めた。これによって沖縄本島および周辺離島から奄美諸島、トカラ列島、種子島・屋久島の範囲に存在する民謡旋律の分布状況の把握と今後のより綿密な調査研究に向けての展望を得ることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 11 件)

久万田晋、近現代における沖縄の民俗音楽・芸能の変遷過程-エイサーを事例として-、現代グローバル社会における自律的島嶼社会モデルの構築と実践-島嶼地域研究・教育の拠点形成-、琉球大学国際沖縄研究所、査読無、2016、pp.207-224

金城厚、民謡研究と伝承のための録音アーカイブの展望、人文科学とコンピュータシンポジウム論文集じんもんこんの新たな役割-知の創成を目指す文理融合のこれから-、情報処理学会シンポジウムシリーズ、査読有、2015 巻 2 号、2015、pp.199-202

久万田晋、沖縄の民族芸能・ポピュラー音楽にみるローカルとグローバル、音楽表現学、日本音楽表現学会、査読無、vol.13、2015、pp.57-58

久万田晋、戦後沖縄二つの芸能コンクール、神奈川大学評論、査読無、第 82 号、2015、pp.136-139

久万田晋、第 10 章第 4 節芸能娯楽の戦後の展開、沖縄市史第三巻民俗編-CD 編-、沖縄市、査読無、2015、pp.1059-1067

久万田晋、第 10 章第 2 節民俗芸能・民謡、沖縄市史第三巻民俗編-CD 編-、沖縄市、査読

無、2015、pp.1031-1039

久万田晋、第 6 章芸能・娯楽-本市における芸能と娯楽の概要と特徴-、沖縄市史第三巻民俗編 冊子編、沖縄市、査読無、2015、pp.140-164

金城厚他、琉球古典舞踊<かせかけ>の楽曲構成についての考察、ムーサ、査読無、16 号、2015、pp.55-71

久万田晋、沖縄・奄美の祭礼・芸能、民俗学辞典、丸善出版、2014、pp.598-599

小林公江他、沖縄県名護市旭川の手踊りエイサー、京都女子大学発達教育学部紀要、査読無、第 10 号、2014、pp.57-68

久万田晋、沖縄音楽を俯瞰する、多文化社会の文化的市民権、多文化メディア市民研究会、査読無、2014、pp.97-101

〔学会発表〕(計 5 件)

久万田晋、近現代における沖縄の民俗音楽・芸能の変遷過程-エイサーを事例として-、琉球大学国際沖縄研究所「現代グローバル社会における自律的島嶼社会モデルの構築と実践」プロジェクト・公開ワークショップ「交差する地域文化とイノベーション--保護から自律的創生へ--」、2016 年 1 月 31 日、那覇市：沖縄県立博物館・美術館

久万田晋、沖縄の民俗芸能・ポピュラー音楽にみるローカルとグローバル、日本音楽表現学会第 13 回(美ら島)大会シンポジウム<沖縄音楽のローカルとグローバル>、2015 年 6 月 20 日、那覇市：沖縄県立芸術大学

金城厚、民謡現地録音資料アーカイブの展望、フォーラム型情報ミュージアムに関する研究会、2015 年 2 月 8 日、大阪市：国立民族学博物館

金城厚、久万田晋、民謡現地録音資料アーカイブの展望、日本民俗音楽学会第 28 回東京大会、2014 年 12 月 14 日、東京都豊島区：東京音楽大学

久万田晋、沖縄の民俗芸能の担い手と学校、大学共同利用機関法人人間文化研究機構連携研究<文化遺産の復興に向けたミュージアムの活用のための基礎的研究-大学共同利用機関の視点から> 関連フォーラム<学校芸能の現在(いま)>、2014 年 11 月 1 日、大阪市：国立民族学博物館

〔図書〕(計 4 件)

小林公江・小林幸男、沖縄県名護市嘉陽の臼太鼓、2015、20

小林公江・小林幸男、沖縄県名護市為又の
手踊りエイサー、2015、31

小林公江・小林幸男、楽譜・歌詞資料沖縄
県名護市山入端の臼太鼓、2014、19

小林公江・小林幸男、宜味村喜如嘉の臼太
鼓・七月エイサー、2014、54

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

久万田 晋 (KUMADA, Susumu)
沖縄県立芸術大学・付置研究所・教授
研究者番号：30215024

(2) 研究分担者

小林 公江 (KOBAYASHI, Kimie)
沖縄県立芸術大学・付置研究所・研究員
研究者番号：40195772

金城 厚 (KANESHIRO, Atsumi)
沖縄県立芸術大学・音楽学部・教授
研究者番号：50183273